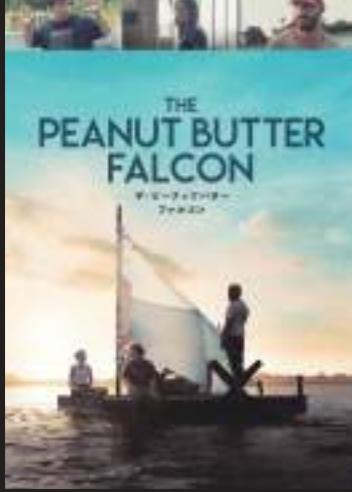


Reccomend
Movie 010

窃盗がバレて逃亡中のタイラーと施設から脱走したダウン症のザックが偶然出会う。ザックは子供の頃からプロレスラーになることが夢で養成学校に入るため脱走していた。そこに、ザックを連れ戻しに来た施設職員のエレノアが加わり、様々な葛藤と困難を乗り越え、ザックの夢を見るレスラー養成学校にたどり着く。夢を純粋に追うザックと現実的に無理だと言う周りの大入達。ザックの純粋な気持ちに折れて一緒に夢を目指す・・・という綺麗な話だけではない。作中では、タイラーに「レスリングでヒーローになればいい」と言られたザックが「自分はダウン症で周りから馬鹿にされているから無理だ」と答えるシーンがある。何も考えずに夢を追っているのではなく、自分の事と置かれた状況を理解した上で夢を語っていた。決めつけではなく、信じて人と関わっていきたいと感じさせられた。

執筆者：広報 GM 宮里 政士

ASSOCIA
local network design

Editor's Note

8月はじめに強烈な台風が沖縄を直撃しました。少し遅れて兵庫にも。沖縄で台風は常連ですが、兵庫県では珍しいです。社内で大きな被害はなく、ホッとしていますが、気候変化にしっかり対処できるように備えなければなりませんね。

執筆者：広報 GM 宮里 政士

障害者手帳を持っているわけではないし、高齢者でもない、身近で福祉に関わっている人もいないということで「福祉」というものは、自分には関係ないと思っていることはありますか？日本人は、

「福祉」はいったい、誰の為のもの？これを読んでいるあなたの為のものです。

人に迷惑をかけちゃいけない！そう言われて育ってきた人も多くいて、人に助けてもらうことを「迷惑をかけること」と捉えている人も少なくないかもしれません。多様化といえば聞こえはいいかもしれないが、今までの常識が常識でなくなり、今までの当たり前が当たり前で無くなることもあります。これで間違いない！という事が無い。このような世の中で、目まぐるしく変化する日常に突然ついていけなくなることが起きてても不思議ではありません。

「福祉」と聞くと、高齢の方や障がいのある方のことがすぐに思い浮かびませんか？そのため、「福祉」というのはあまり身近ではなく、自分には関係ないと思っている方はいませんか？

執筆者：ジョブ川西 長坂 貴代子

Associa Staff

安里 是子

所属：沖縄県拠点型子供の居場所 JobCamp



入社して約10年が経過しました。現在はMGRをしていますが、今のところ管理者と子育ての両立はうまく言っています。同僚や家族のサポートを得ながら何とか過ごしています。20代後半から管理者や母親という役割が追加され、新たな体験や出逢いに幸せを感じつつも、疲弊しないよう自分自身をどう保つか深く考える

ようになり・・・結果、封印していた「推し活（KPOP）」を再開することに。パクソジュンなどの俳優やXGのようなアイドルも好きなので、仕事と同じぐらい把握することが多いですが、心は満たされていくばかり。韓国のお話をしてくれる関係者も増えているのですが、私が止まらなくなるので、どうか仕事中に韓国のお話はしないでください。（笑）

発行元：株式会社アソシア

法人本部：沖縄県中頭郡北谷町北前1-10-8
TEL：098-926-5175 FAX：098-926-5176

MAIL：info@associa-lnd.co.jp

HP：<https://associa-lnd.co.jp/>

インスタグラムで情報配信中



ジョブ川西 ホイスコーレ神戸

ASSOCIA JOURNAL

TAKE
FREE

August
2023



VOL.11

仕事だけでなく遊び にも全力で取り組む アソシア・ファクトリー川西

普段真剣に仕事に取り組み、目的や緊張を共有しているからこそグッと距離が縮まる瞬間。

アソシア・ファクトリー川西（就労継続支援B型）では、Amazon等でお客様からご注文いただいた商品の受注管理、発送業務を中心に日々お仕事をしています。（詳しくはASSOCIA JOURNAL VOL.06をご覧ください）



この春、大学卒業とともにホイスコーレを卒業し社会人になりました。1年前の私は、家庭内に危機的状況が生じた上にインターンでの挫折体験が重なり、強いストレス下にありました。その時に大学の先生からホイスコーレを紹介され通所することになりました。仕事に就いた今、ホイスコーレを利用して良かったと思うことが2つあります。1つは、しんどい時は誰かに頼っていいと思えるようになったこと、2つ目は困難を目の前にした時に“する”か“しないか”的な2択で考えられるようになったこと。以前は「やらなきゃ」の1択で追い込まれることが多く、やらない選択を考えられるようになったのは大きいです。今、働く中で試練だと思うことはありますが、時々自分を甘やかしながら進んでいきたいと思います。

協力：ホイスコーレ神戸 利用・Mさん（22歳）



遊びにも全力なファクトリー川西では、月に1度みんなで余暇活動に取り組んでいます。今回は、そんな「ファクトリーの休日」に焦点を当てお伝えしていきます！

余暇活動のイベントは「アイデア出しから企画、実践までを利用者主体で行うこと」を大切にしています。「人生でやったことのない事をしてみる」や「一品でも自宅で料理を作れるようになる」など企画によって目的は様々ですが、『やらず嫌いを0に』を裏スローガンにスタッフも一緒に楽しみながらサポートしています！企画を始めた頃は「沖縄旅行に行こう!!」、「USJに行ってみたい!!」など予算外視のアイデアばかりでしたが、日常プログラムで「お金の授業」をしたり、予算内でやりくりをしたりする経験を積むことで、最

近では予算金額と出てくるアイデアのギャップが埋まってきた！自分たちで企画を進めるにあたって、時には意見が食い違う事もありますが、それも集団で物事に取り組む上では大切なプロセスだと考えています。その活動に取り組むみんなが何に不安を感じているのか、その不安を取り除くことは可能かを再検討し、参加者全員の合意形成が取れた上で企画を実践していく。活動に参加しにくい方も、自身の不安な要素を把握し、どのような配慮があれば無理なく参加できそうか等についてスタッフと面談の中で自己理解を深めています。企画から実践までやってみると、充実感が得られ、終わった頃には「来月は何をしよう！」という話になります。

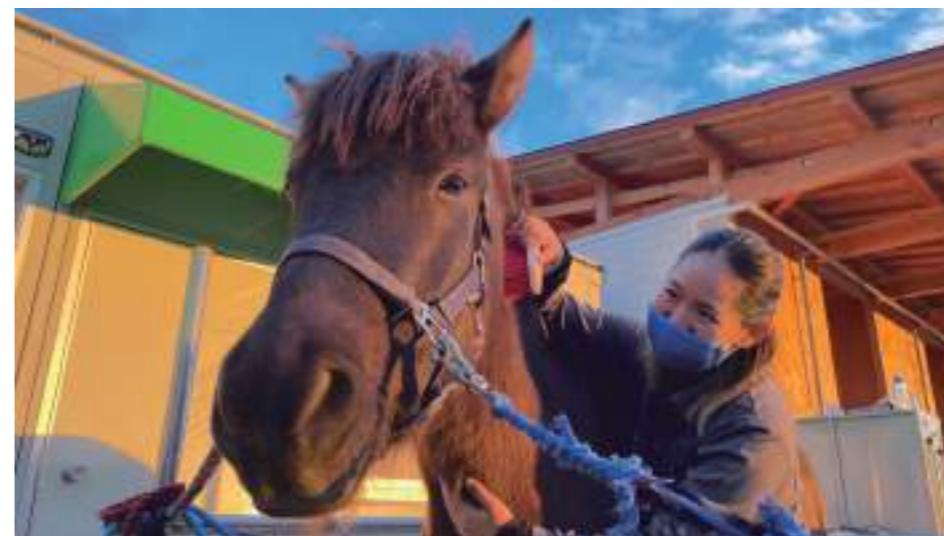
「遊び」から学べることは、我々が想像するよりも沢山あると思います。というか、遊びからしか学べないことも必ずあると私は考えています。ここまで読んでいただいている皆様、最近遊んでいますか？やりたいこと、やりたかったことをいつの間にか後回しにしていませんか？『車のハンドルと掛けまして、人生と解きます。その心は、どちらも「遊び」が大切でしょう』＼ネイ・ツヂ／

まだまだ暑い日が続きますが、皆様どうかご自愛ください。

執筆者：ファクトリー川西 神園 悠人

元利用者インタビュー～Vol.3 「ジョブ川西ってどんなトコロ？！」

ジョブ川西を利用して感じたコト、得たモノ、そして自身のこれからについて。前回に引き続き、卒業生へのインタビュー記事（後編）を掲載。※前回のインタビュー記事は7月号をご覧ください。



現在、牧場（乗馬クラブ）で働いているといふことでしたが、改めてどのような仕事ですか？

-Nさん：乗馬を教えるインストラクター、馬の世話・体調管理・調教、お客様対応、広報、スタッフの指導をしています。

福祉事業所で教えられるような業務ではないですね（笑）

-Nさん：この職業は特殊なので。（笑）けれど、アソシアの訓練でグループリーダーをやったことが、後輩への業務指導に活かされています。例えば、この職員は作業中に話すと伝わるけど、事務所で話すと伝わりにくい等、その人の特性をみながら話すことができて楽しめます。それは、アソシアでの「自己理解・他者理解講座」の経験が大きいです。みんな同じように出来るわけではありません。

特に、馬はメンタルを使う職業で、こちらが「怖い」と思うと荒れるのでメンタルを保たなければいけません。

メンタルを一定に保つというのは、分かっていても難しいですよね？どのようにして出来るようになりましたか？

-Nさん：切り替えが一番です。私の場合は接客が得意なので「接客の私」「調教の時のフラットな私」という風に。取り組む前に自分を見

直す。それでも難しい時は、アソシアで作った「気分転換の時のリスト」を一つずつ実行します。これをしてみると私は変わると信じています。

いつかきっとこれが将来何かにつながると信じてやるのですね。

-Nさん：今日はダメだったなって時は、最終的に「未来のために積み上げた」と考えて、帰ってきて美味しいご飯を食べたらOK。早く寝たらOKとか“必ず出来ること”をしてリフレッシュします。

ここまで話を聞くととてもポジティブな人だなと感じますが、元々そうですか？

-Nさん：そんなことはないです。ネガティブな感情をSNSで吐き出すようにしています。

最後にこれからアソシアを利用するかもしれない方へ自分の体験を伝えるとしたら？

-Nさん：挑戦したくなったら、スタッフの力を借りて思いっきりやって、無理だったら泣きついたらい。人は成長できるし、諦めてもいい、選択肢はいっぱいあるという事を知れたらいい。少しずつでもいいので、頑張ってください。

協力：ジョブ川西 卒業生 Nさん

Column

みんな価値観は違うと言うけれど、どう違うのか具体的に教えてくれるのは一体誰？～人生観と深く関係する価値観について考える～

価値とは人が生きていく上で必要な考え方。私たちの行動はすべて価値観からもたらされるものであり、計画・行動が価値観と一致した時、私たちは心から充足感を得ることができますが、反対に価値観が定まっていなければ、周囲に影響されやすくなったり、ストレスを感じたりと満足感を得ることは難しくなると言われています。多様化が進んでいる現代で、価値観は人それぞれであることを前提とし、違いを理解し認めるといった動きが求められていますが、具体的に自己と他の価値観について考える機会は案外少ないものです。ジョブキャンプでは、約80個の価値観の中から、自分が大事にしている・したい価値観を10個選択するという価値観ワークがあります。各々が「達成」「調和」「正義」「愛慕」といった譲れない価値観を発表し合うことで、自己と他の価値観が異なることを具体的に理解し認め合います。区別し認め合うからこそ、相手の価値観を踏みにじらないよう意識し、良好な人間関係を構築・維持していきます。

児童・青年期にいわゆる一般的な“勉強”

といった学習だけではなく、生きやすくなるためのヒントを誰がどれだけ伝えるかで子供たちの生きやすさは少し変わってくるかもしれません。

執筆者：沖縄県拠点型子供の居場所

JobCamp 安里 是子

